

令和 7 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	令和 7 年 7 月 2 5 日（金） 午後 2 時 1 5 分～午後 4 時 3 0 分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、座席表、出席者名簿、令和 7 年度点検評価委員会審査日程、令和 7 年度教育委員会の点検・評価報告書（案）、令和 6 年度教育行政方針
5 出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
6 議 事	<開 会> 1 4 時 1 5 分開会 <会議の公開> 会議を公開することを決定した。傍聴者希望者はなし。 第 1 回保留事項への回答 <豊永副参事> 19 ページ 1 (5)「リニューアルした館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動の推進について、夏休み親子のつどいの今年の参加申し込み状況はどれぐらいあるかとのご質問について、今年度の応募者は 46 家族、134 名であり、その中から抽選で選出を行い、参加条件となっている事前説明会に出席した 22 家族 68 名が、今年度の参加者となっている。次に 2 点目は、21 ページ 1 (6)、「中高の連続性の強みを活かした教育の推進について」や国際中等教育学校の研究発表会の視察件数について、市内外の内訳はとのご質問について、高校教育課より回答する。 <高校教育課長> 140 名の内訳は教育関係者であり市内は 28 名、市外は 54 名、その他、地域の方や小学生なども含む。 議題 各施策についての点検・評価 令和 7 年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果（令和 6 年度事業対象）」において、「2 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成」の 1 3 事業（事業名は別紙「令和 7 年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。 【主な意見及び質疑】「2 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成」 （1）世界的な視野をはぐくむ英語教育「グローバル・スタディ」の更なる推進 （2）グローバル人材を育成する国際教育の推進 （3）新しい時代のキャリア教育の推進

令和7年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

＜橋本委員＞

未来くるワーク体験の実施校に大宮国際中等教育学校は入っているか。

＜生涯学習振興課＞

入っていない。特別支援学校を含め全 60 校のうち、2校は不参加。参加していない学校はさいたまエンジンを導入している。

＜平澤委員長＞

未来くるワーク体験が前年度より増えている理由は。

＜生涯学習振興課＞

推進委員会へ様々な団体に参加いただき、各団体で周知してもらったことや、コロナ後に飲食店や販売店が増えている。

＜平澤委員長＞

行った児童生徒の態度や姿勢が良かったために事業所より良い評価を受けて増えてきたのではないかと。自分たちの体験が後輩たちにつながっていくのだということを伝えられるとよいのではないかと。また、未来くるワーク体験や未来くる先生、夢の教室などそれぞれの事業の関わりが分かりづらく体系づけていくことが必要と考えるので進めていただきたい。

＜和田委員＞

未来くるワーク体験を通して普段の学びがどのように社会にフィードバックされるのか、振り返る機会を作ってみてもよいのではないかと。

（4）子ども主体のいじめ防止対策の推進

＜橋本委員＞

学校生活指導員の派遣について、1校に何人委嘱されているのか、また、何日派遣されているのか。

＜生徒指導課＞

1校につき1名、1回につき約2週間である。校長と協議のうえ延長するか、あるいは体制が整ったとして次の学校に何うことになる。

＜橋本委員＞

2週間で良くなるというのは難しいのではと思う。できる範囲で人員や日数を増やすなど、検討いただきたい。

（5）一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育の推進

＜平澤委員長＞

特別支援学校のひまわり学園の定員割れについて、具体的にどのような取り組みがあるか。

＜特別支援教育室＞

今行っている普及活動を周知していくことが必要と考えている。主に、今年度初めて出る卒業生の就職先など地域や企業と連携した取組を考えている。

令和 7 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(6) 国際バカロレアの教育によるグローバル人材の育成

(7) 一人ひとりを大切にしたい人権教育の推進

(8) スポーツを科学する生徒の育成

＜和田委員＞

特定のアプリに依存しないのはどのような目的があるのか。

＜教育課程指導課＞

現在は小学校では二画面解析アプリのみ使用しており比較するのみであるが、それだけではなくカメラやデータの使い方等、幅広いものとして進めていきたいと考える。

＜平澤委員長＞

そもそも DX をしていくことがテーマであるが、機材を通してだけではなく生で見たときに判断できる力もつけてほしい。

＜和田委員＞

運動が苦手な子どももコツをつかむことで頑張ってみようとなる。また、別の科目とつなげていくことが全体の底上げとなるのではと考える。

(9) 子どもの個性と多様性に応じた不登校等児童生徒への支援の充実

＜橋本委員＞

いそろり学園について、不登校の子どもが転籍をするのか、あるいは今の学校に籍を置きながらいそろり学園のカリキュラムに入るのか教えていただきたい。

＜総合教育相談室＞

転籍し新たな教育課程を受ける。growth は転籍しないため大きな違いがある。

＜橋本委員＞

いそろり学園に転籍し授業を受けることになるとう不登校が解消されたということに数字上はなると考えてよい。

＜総合教育相談室＞

そうならばよいと考えるが、オンラインと登校を選択できるようになっているのでどちらか合う形で授業に参加できるとよいと願っている。しっかりと準備をしていきたい。

＜橋本委員＞

登校する場所はどこか。

＜総合教育相談室＞

教育研究所に職員室等を設置、他 6 室キャンパスがある。

＜平澤委員長＞

転籍見込（予定）人数は。

＜総合教育相談室＞

300 名の定員である。プレ開校に応募した 201 名全員が転籍しても問題ないと考えている。

令和 7 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(10) 子どもの幸せを保障する心のサポート体制の充実

＜和田委員＞

スクールカウンセラーの面談訪問の実施件数の表について、延べ件数が分かりやすい。また、どう読み取り受け止めているのか伺いたい。

＜総合教育相談室＞

何度も相談している方も含まれている。多くの方に相談をしてもらえるようになっていることについてプラスで認識をしている。

＜平澤委員長＞

SOS の出し方について、大人にとっても必要なことであるが、子どもたちについては引き続き進めていただきたい。

(11) SDGs の実現を目指した教育の推進

(12) 「子どものための体力向上サポートプラン」の更なる推進

(13) 学校・家庭・地域が連携した魅力ある食育の充実

＜橋本委員＞

地域の方を招いた給食の時間について、地域の人話を聞き、地域を知る機会というのは非常に勉強になると思うのでぜひ引き続き実施していただきたい。

(全体の意見)

＜平澤委員長＞

事業、独立した事業であるが、全てつながっていると考える。それぞれが独立しすぎず、有機的に交わるよう模索していただきたい。

＜休憩・担当所管入れ替え＞

「5 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備」の13事業（事業名は別紙「令和7年度点検評価委員会審査日程」参照）について所管課より説明を行った後、委員からの意見及び質問を受け付けた。

【主な意見及び質疑】

(1) 「新たな教師の学びの姿」の具現化

(2) 魅力ある人材養成・確保・育成の一体的推進

令和7年度
第2回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(3) 子どものスポーツ・文化環境活動体制の整備 ～部活動の地域移行～

<平澤委員長>

世界的に見れば地域でスポーツをするのが一般的である。日本のような国は珍しいなかで、地域移行する際に、良い点も見ていかなければならない。多世代での交流や関わりが子どもにも地域にとっても良い点。地域にとってもメリットをつくれるよう模索していただきたい。

<和田委員>

文化部も含むのか。

<教育課程指導課>

含めている。

<橋本委員>

統括団体とは。

<教育課程指導課>

民間の業者に委託し指導者を派遣し管理する。

(4) Well-being (幸せ) の実現に向けた学校における働き方改革の推進

<和田委員>

保護者の肌感覚として、学校と連絡が取りづらくなっている。特定の保護者対応についての課題意識は十分に判断する一方で、一般の保護者が遠慮して連絡しづらいこともある。子どもの小さな SOS を先生と話せない状況があることについては PTA でも話している。改善いただきたい。

<和田委員>

現場の先生から、やることが減っていないのに働き方改革はしんどいといった声も聞く。部門をまたがるところは圧縮する、インプット、アウトプットの研修密度を濃くすることで難しいと思うが、生産性が上がり結果的に先生が健康で前向きに働ける環境を実現いただきたい。

(5) 学級規模等の適正化に向けた小学校 35 人学級の実現

(6) 次世代に向けた持続可能で質の高い教育環境整備の推進

(7) 教育環境の充実を目指す水泳学習の民間委託化の推進

<橋本委員>

8月1日から浦和大里小学校のプールが一般開放されるが、沼影プールが閉鎖になったための一時的なものか。また、来年開校する大和田小学校のプールとは違うか。

<学校施設管理課>

浦和大里小学校のプールについては沼影プールの代替機能も備えている。今後、新たなスポーツ施設のプールができれば無くなる。大和田小学校の方は、代替としてはなく、子ど

令和 7 年度
第 2 回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

もたちが使わない期間や時間帯については地域へ貸し出しする。学校施設も子どもたちのものだけでなく地域や防災のために地域の市民の皆様も使えるような施設としていく。

＜平澤委員長＞

アンケートについて、肯定意見ではなかったのはどのような声があるか。

＜教育政策室＞

プール自体が好きではない子もいる中で 100% は難しいのではと考えるが、高い水準と考える。

(8) 実効的で持続的な学校安全体制の充実

(9) 良好な学習環境等を目指す学校のリフレッシュ計画の推進

(10) 快適な教育環境確保のための学校体育館への空調設備整備の推進

＜橋本委員＞

小学校体育館の使い方や頻度の高いところからといった考えで進めていただきたい。特別教室への設置もできる限り考えていただきたい。

(11) 明るく衛生的な学校トイレの洋式化等の推進

＜和田委員＞

洋式化率の考え方について。

＜学校施設整備課＞

子どもたちが日常的に使う校舎のトイレについて、元々和式が多かったが順次洋式化に更新してきている。

＜和田委員＞

保護者としては学校は古いがトイレはちゃんとしているか等が重要であるとする。日常生活に支障ないよう整備をお願いしたい。

(12) さいたま市大学等進学「夢」支援の実施

(13) 教育改革の実現に向けた新たな学校課題研究の推進

＜閉 会＞ 16 時 30 分閉会

【問合せ先】教育委員会事務局管理部教育政策室 829－1626